

綾地域における環境教育推進のための ヤマビル生息調査・被害対策協働プロジェクト

活動地域  宮崎県東諸県郡綾町

ひろげる助成

3年目

調査研究

調査や整備への参加延べ人数 **245人**

学習会への参加人数 **116人**

今年度計画の達成度 **100%**

目標達成度 **90%**



ヤマビル対策遊歩道整備・落ち葉かき参加者

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

ヤマビルの活動が最盛期となる7月から10月まで台風災害により通行止めになり入山できなかった。11月に開通し、ぎりぎりヤマビルを捕獲し調査を進めることができた。

■ 工夫した点

宮崎県内のヤマビル生息地域分布を調べる時、県内全域をやみくもに調査するのは時間と労力がかかるため、国有林管理者と行政から情報収集し、まとめることができた。

課題

シカ・イノシシの個体数増加に伴いヤマビルの生息エリアが急激に拡大。生物多様性やESDの重要性を体験する自然豊かなエリアに多くの人が出向く機会を激減させている。

目標

地域の組織体制を確立し歩道の環境整備をすること、ヤマビルの生息数が前年度対比で50%減少すること、地域住民のヤマビルに関する理解を深めることを目標とする。

活動内容と成果

遊歩道整備やヤマビル生息数調査を継続し245人が参加。宿主同定のDNA分析では、一般的に主な吸血源といわれる野生動物ではなくヒトであるとの結果がでたため、遺伝子解析をしたが、九州地方と同じまとまりに位置するという結果を得た。ヤマビルを駆除する根本的な解決法はなく、同じ問題を抱える自治体とネットワークを形成し情報交換するための足がかりに、宮崎県内のヤマビル生息地域分布調査と県外で先進的に協働駆除活動をする地域へ視察した。3年間の活動でヤマビルの理解を深め、重点地域で約50%生息数を減らすことができた。



危険を察知し落ち葉と一体になるヤマビル

全助成期間の活動を振り返って

生息数調査や宿主同定DNA分析を通じて、遊歩道整備を定期的に、持続的に続けていくこと、そして入山者が吸血されないこと、に重点をおき活動することができた。長期的に歩道整備を担っていくにあたり、地域住民や関係者が疲弊してしまうことが予測された。最終年度は同じ悩みを抱える自治体や団体と、地域住民とともに意見交換する機会も得た。住民と地域を盛り上げながらいかに歩道整備を継続させるか、今後の課題である。



ヤマビル捕獲大作戦に挑戦する観光客

〒880-0014
宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号
電話：0985-35-7288
E-mail：teruha@miyazaki-catv.ne.jp
HP：https://ja-jp.facebook.com/pg/てるはの森の会
-120281561396162/



今後の展望

遊歩道を管理する団体や行政と協力関係を維持しながら、入山者への吸血被害を減らし被害者の嫌悪感を少しでも減らすために活動を継続していきたい。そのためには照葉樹林ガイドボランティアとの協体制を続けながら、被害モニターの継続や入山者への普及啓発を継続、ガイド者の研修を継続して行っていく。また、活動成果を近隣市町村と共有し情報交換をはかりたい。